



公益社団法人日本山岳会  
石川支部報



2017年度(平成29年度)	
峯 第4号	
復活25号	
平成30年3月31日発行	
I.計画山行・個人山行 報告	- 1~7
II.行事等 報告	- 7~11
III.今後の予定	- 11~12
IV.その他 案内・連絡	- 13

## I. 計画山行・個人山行 報告

### 1. 第7回登山教室指導者養成講座 参加後記

- ・2018年2月17日～18日
- ・長野県小諸市 安藤百福自然体験活動指導者養成センター／水ノ塔山
- ・参加者 八十嶋仁

先日、本部主催のリーダー養成講座に参加させていただきました。昨今日本山岳会に限らず、登山中の事故が増えていることを鑑み、リーダーを育成しようという目的で開かれているとのことでした。

多摩、関西、四国、東海各支部は複数人の参加。以前参加したユースの講習会でお会いしたことがある人も多く、和やかな雰囲気でした。また、岩手や青森など遠方から一人で参加されている会員も見え、石川支部から一人で参加した私としても刺激になりました。



#### 【1日目】

13時に会場入り。この日は座学と懇親会を受講しました。講義の主な内容は、セルフレスキューについてでした。

最初に長野県警山岳救助隊の榎引知弘隊長から、近年の長野県内における遭難の傾向と対策について伺いました。以下、要点を。

#### ☆近年の遭難の傾向

登山者の増加により、遭難件数は全体的に増加。中高年、男性の割合が圧倒的に多い。登山に自信が有る人が遭難しやすい。

死傷者が出るような事故はあまり増えていない。激増しているのは「道迷いでへりを呼ぶ人」。地図も持って

おらず、コースの下調べなどもししていない様な、お粗末な登山者が増えている。

☆遭難の3つの要因・・・地形要因（危険箇所など）、気象要因（吹雪など）、人的要因

特に人的要因が大きく影響する。地形、気象に関しては「気をつけていれば回避できる」危険が多い。人的要因＝油断、過信、知識不足、技術不足、体力不足、判断ミスなど。

山岳会に入っていることで、救助要請が遅れることも・・・救助を呼ぶことを「恥」と考え、山岳会の中で処理しようとする。結果、救助要請が遅れ、いっそう致命的な遭難となる。

☆遭難時の対応

- ・まず一息つき、冷静になる。
- ・パーティー全体の安全を確保する。
- ・周囲の状況の把握、遭難者の容態確認など、必要な情報を収集。
- ・セルフレスキューの可否を判断する→過信は禁物！無理をすると二次遭難につながる。
- ・セルフレスキュー困難な場合はすぐに通報する。救助隊には情報をできるだけ正確に伝える。

→救助に必要な情報・・・場所、現地の地形や天候、遭難者の容態。

あらかじめ計画書を提出することで通報時間を大幅に短縮できる。

★救助はとにかく時間との戦いであり、情報の有無が救助の成否に大きく影響する。

○注意点

- ・携帯電話のバッテリーは温存する。余計な通信はしない。  
家族などへの連絡は後回しにするか、緊急連絡員が担当する。
- ・遭難者や他のパーティーメンバーの安全確保を最優先。  
また保温や補給で体力を維持することも大事。（レスキューシートなどを持っているが良い）
- ・ヘリに合図する際は、発炎筒は案外、発見されにくい。ヘッドライトを点滅させると良い。
- ・ヘリが現場に急行するまで、通報を含めると1時間以上かかることが多い。  
ヘリは暗くなると飛べないため、日没2時間程度前には通報しないと救助不能になる。
- ・霧が出ているとヘリ救助は困難になる。現場の気象状況は通報時に正確に伝える必要有り。

櫛引隊長の講義の後には、本部遭難対策委員会の川瀬恵一委員長より、計画書提出についての新规定の説明がありました。内容を端的にまとめると、支部会員の個人山行でも本部への計画書提出を徹底せよとのことでした（ただ、本部は計画書の内容について口出しはせず、サポートも特にしないとのことでした）。

この日の最後には重廣恒夫副会長より、支部山行などでの遭難対策を徹底する旨の再確認や、これまでの登山経験で培った救助技術のあれこれについて話を聞きました。

【2日目】

朝8時に宿舎を発ち、浅間山麓にあるスキー場へと移動。かんじきやスノーシューに履き替え、標高2202mの水ノ塔山を目指しました。歩行そのものは慣れたもので、気楽についていくことができましたが、印象に残ったのは空の色と雪の質感。北陸の鉛色の空とは桁違いの蒼い空、湿り気の全く無いさらさらとした雪。これほどの好条件で登れたのは幸運でした。

ピークを踏んだ後は、30分ほど下り広い鞍部で重廣副会長よりセルフレスキューの手ほどきを受けました。パーティー内に負傷者が出てしまったという想定で、負傷者をいかに搬送するかを課題としました。

まず教わったのは、ザックひとつを使い負傷者を背負う方法です。ザックの中身を全部抜き、肩ベルトを緩めて負傷者の足に通し、クッションつきの背負子のようにして使う方法です（抜いた荷物は他のパーティーメンバーで分配します）。これは非常に手軽にできる方法であり、非常時にはこうした簡単な方法で無いととても活用できないということでした。確かに簡単では有りますが、負傷者を背負って下山するのは大変な労力です。

結局のところ、セルフレスキューを図るには、普段から体力を鍛え上げないといけないということなのかも知れません。

もうひとつ教わったのは、ザックを連結して担架を作る方法です。これも非常に手軽で、中身を抜いたザックを2つ以上用意し、肩ベルトなどを使ってザック同士を結びつけるだけでした。ただ、搬送中に手を離しても要救助者が落下しないよう、スリングなどで搬送者とザック担架を固定する必要があるとのことでした。また、サイドベルトにストックを通すとさらに搬送しやすいそう。

今回は非常に短い時間の中でしたが、充実した講習を受けることができました。また、他の支部の会員たちとも交流することができ、実りの多い時間でした。



## 2. 個人山行 富士写ヶ岳

日時： 2018年1月7日 天気：晴れ

ルート： 加賀 富士写ヶ岳 我谷コース

メンバー： 堀(夫婦にて)

年末からの何度かの寒波で里山にも雪が積もった、が、年末年始は仕事も家庭もドタバタとして山に行けなかった。ようやく休みと天候が良い日が合ったので富士写ヶ岳に足慣らしに行くことにした。

山頂の積雪は2mとの事前情報を得ていたので、登山口からそこそこの積雪があることを期待して8時スタートを目処に我谷登山口に向かった。

道中の山中温泉も我谷登山口に到着しても思ったほどの積雪は無く、我谷登山口の吊り橋は地面(コンクリート)が出ており、早朝で気温が低かったので雪が溶けた水が凍って滑りそう。吊り橋を渡った登山口までも積雪が少なく、踏み跡が溶けて土が出ておりドロドロ。登山口から5分ぐらい登ったところからようやく雪が繋がってきた。途中、中間点と書かれた標識が埋もれていた、この標識は夏には無かったような？

積雪は中間点で50cmから場所により1m弱か。

登りはじめは微妙な青空が見え隠れしている空であっ

たが、尾根筋に出る頃には雲が晴れてきて青空となり小松・大聖寺・福井方面が良く見えた。

山分岐までの急登でルートに朝日が差し始め、着雪した樹木の疎林越しに良い感じの

光と影の模様を映している。

同時刻に登っていた方々もカメラを出して撮影タイムとなった。

頂上は既に十数名ぐらいで賑わっていた。

休憩中に5,6名到着、下山時に5,6名が登ってきたので本日は10パーティー30名程か。

方位盤は埋もれており場所も分からない、周囲の樹木が出ているので場所を推測して

方位盤の脇と思われるところで休憩とする。



出ている樹木の状況から積雪は2m弱か。  
持参したラーメンと焼飯でランチ、実はラーメンは  
2017年4月に賞味期限切れ、  
焼飯も2018年2月の賞味期限切れ間近であったが美  
味しく食べることが出来た。  
食べ終わった頃に風に乗ってお昼のサイレンが聞こえ

### 3. 医王山

日時： 2018年1月20日(土曜日)  
天気： 晴れのち上だけ悪天に  
ルート： 医王山 白兀山  
メンバー： 堀(夫婦にて)

先週は6年か7年降りの北陸地方の大雪の為、お山に  
行くどころでは無い、自宅や会社の除雪に追われ心身  
共に疲れ果てた。里山にもタップリと雪が積もった、  
今週は冬型も緩み積もった雪が締まってきているはず  
だ。今週末の天気予報は土曜日が午前中は晴れとのこ  
と、週末直前まで迷い里山に行くことにし、医王山 白  
兀山、医王山(蛇尾山)、夕霧峠周回とした。

昨年と同時期に積雪量が少ない中で同ルートを周回し  
大変な思い、いや、勉強をしたのでその時のルートの  
確認もしたかった。

ネット、SNSで情報収集すると見上峠の駐車スペース  
は早い時間に満杯になり、遅くなると路駐になるとの  
情報で7時過ぎに駐車スペースに着く、さすがにガラ  
ガラ。駐車スペースで準備をして出発するが続々と車  
が上がってくる。見ていると殆どの方は軽装だ、驚い  
たのは今日出会った人数中でワカンかスノーシューを  
持つ人は2/3程であったことだ。

てきた、これを合図に片付け、

下山にかかる。

下山時は雪が緩み歩きやすいが、所々でズルッと滑る  
ので要注意だ。今日は積雪が多いことを想定してワカ  
ンを持参したがトレースがしっかりと付いており  
出番が無かった。

積雪期の県道153号線、我谷登山口も除雪はされてい  
るが路肩までは除雪されず、駐車スペースが少なくな  
っている。

無雪期の1/3程しか駐車できないので車でのアプロ  
ーチは要注意、早朝に着いて駐車場所を確保すること  
をお勧めする。

先日の富士写ヶ岳でも同じであったがワカン・スノー  
シューを持つ人が少ないことだ。

これは最初からトレースをあてにしてラッセルはしま  
せんよ、の意思表示か。それだけでは無く、荷物が少  
ない人が多い印象、中には荷物を持たない人も居た。  
里山であっても舐めてはいけない、と説教したいとこ  
ろであったが他人には関知せず、自分は重くてもしっ  
かりと装備は持ち歩を進める。

早朝で天気も良く放射冷却で気温が低く、トレースは  
カチカチで踏み抜きも無いくらいなので、ワカンを持  
つが行けるところまでつぼ足で行く。見上峠を出発す  
る時はまだ薄暗かったが、医王の里で朝日がさしてき  
た、太陽の高度が低いのでモルゲンロートとまでは行  
かないが薄橙色に雪面が染まり、木々の陰が長く出て  
幻想的。医王の里上のいつもの林道ショートカット登  
ったところの登山口からの尾根筋ルートはかすかにト  
レースはあるが直近では入っていない様、そのまま林  
道を登る。林道は登るにつれて視界が開けて来て、白  
兀山、医王山(蛇尾山)、夕霧峠と奥医王山、小原尾根  
まではっきりと確認出来る。

昨年と同時期の白兀山、医王山(蛇尾山)、夕霧峠への  
ルートにもしっかりと積雪が有り、稜線通しで行ける  
ことが視認できる、昨年は何故あんなに苦労したのだ  
ろうと思い返す。

西尾平で小休止しながらルート確認するが、ここからも前山への尾根筋ルートへはかすかなトレースしか無く、林道にトレースがある、しらがくびまで林道を進み、登り口でワカンを履くつもり、が、しらがくびから白兀までもトレースは締まっておりにカチカチ、ワカンいらずで白兀山に着いてしまった。

小兀へ登るところから雲に巻かれ始めて風も強くなりみぞれが降り出した。

周囲を見回すと奥医王山の方も見えなくなり、先行していた他の人たちも白兀山から降りてくる。

自分たちもなんとか雲に巻かれる前に白兀山に到着、一番確認したかった白兀山から医王山(蛇尾山)への尾根筋のルートもギリギリ確認出来た。

去年は苦労したルートも、やはり藪は無く、雪がつながっており尾根通しで行ける。

写真を数枚撮っている間にも白兀山は雲に包まれてきた、とりあえずの目的は達成したので時間は早いがしらがくびへと下山する。

一般的にあと1mぐらい積雪があると楽しいかなとの印象。

白兀山からしらがくびまでの間も沢山の人とすれ違った、西尾平では団体さんも休憩中。

医王の里までの林道では、アレッ、どこかで見たような人が!? 10名程の団体さんの中に

知ったお顔が御二人も、一人は会員のH岡さんでは、とお声がけして足を止めさせてしまいました。

トンビ岩から覗きの方に廻るとのこと、気を付けて行

ってらっしゃい。さらに見上峠までの間でも沢山の人

が登ってくる。今日は100名近く登っていたのでは、見上峠の駐車スペースは満杯で路肩に溢れていた。

どこの登山口も登山の前に駐車スペースの確保が問題だ。それと登山とは直接関係ないが、見上峠のビダル

コーヒーが営業しているのを初めて見た。

今度、時間がある時にコーヒーでまったりも良いかな。



#### 4. 奥獅子吼山(928m)山行報告

平成30年(2018年)3月7日(水) 天気 晴 日 帰り

コース 樹木公園から往復

メンバー 織田

今年初めての山行なので、短時間で登れる奥獅子吼山に登って来ました。

平日は母の介護で、朝早くから行くことが出来ないので家を出たのが9時過ぎでした。

樹木公園の中は除雪がされておらず、樹木公園の手前の信号を左折して上がり、管理事務所の手前の駐車場に車を停めた。

雪は固く締まっておりに沈まないのが楽であったが、急登なので思うように歩は進まない。2時間位かかってようやく月惜峠からの登山道の分岐点に着いた。ここからは快適な稜線散歩となるので、ここで小休止してから頂上をめざした。頂上の手前で、私より年配の男の人で単独行の2人に出会った。平日なのか、天気が良く雪もよく締まっていて絶好の春山登山日和であったが、出会ったのは今回はこの2人だけであった。頂上で白山や犀奥の山々を眺めながら昼飯を食べて下山した。今回はアイゼンもかんじきも使わなかった。

コースタイム

樹木公園の登山口 分岐点 頂上 (928m)

登り 9:23 ⇄⇄ 11:23 ⇄⇄ 12:21

下り 14:23 ⇄⇄ 13:23 ⇄⇄ 12:39

## 5. 奥医王山 (939m) 山行報告

平成30年(2018年)3月11日(日) 天気 晴後小雨 日帰り

コース 見上山荘から白兀山を経て奥医王山へ 下りは小原登山道を下りる

メンバー 織田

前日の天気予報では、今日は晴れとなっていたので、詳しくは調べずに家を出た。

見上山荘前の駐車場に着いたのが9時過ぎで、すでに駐車場は一杯であったが、なんとか停めて林道を歩く。夜の冷え込みが厳しいのか、今日も雪が締まっていて歩き易い。西尾平まで林道を歩き、それからは林道を歩かずに前山を越えて白兀山に向かう。皆まだ林道を歩くのか夏道に行く者は少ないが、雪も締まっていたのでこの道を選んだ。前山を越えるあたりから、あんなに良かった天気が怪しくなってきた。その頃から下山する者と大勢出会ったが、皆天気が崩れそうなので早々に下山するとのこと。

白兀山頂上に着いたが、皆帰ってしまい誰も居なかった。このころから小雪が舞い始めた。今回は、前回の

奥獅子吼山に行った時に、タイツを履いていたら暑かったなので、タイツを履かずにきたら足が寒くなってきた。ここで引き返そうと思ったが、登山はいつもベストコンディションで行えるとは限らないと思い頑張って奥医王山まで行くことにした。

昼飯は風が寒いので、夕霧峠のヒュッテで取ろうと思いそこまで行ったが、1階は先客が何人かいたので、風の当たらない階段で取った。峠から奥医王山への登りはかなり急な上、今日は雪が締まってスパイク長靴ではきついと思いアイゼンを付けて登った。奥医王山から小原に下る道は、2, 3人が下りた跡があったので、その跡を辿って下山した。下山途中から雪は雨に変わって雪も少し柔らかくなってきたが、かんじきを付ける程でもないのでアイゼン履いたまま小原登山口まで下りた。

そこからは、車道を見上山荘まで歩いて戻った。

見上山荘登山口 西尾平 白兀山頂上 夕霧峠 奥医王山頂上 (939m) 小原 見上山荘

9:04 ⇄⇄ 10:02 ⇄⇄ 11:06 ⇄⇄ 11:34 ⇄⇄ 12:39 ⇄⇄ 13:48 ⇄⇄ 14:15

## 6. 口三方山 (939m) 山行報告

平成30年(2018年)3月18日(日) 天気 晴 日帰り

コース 直海谷川登山口から往復

メンバー 織田

今回は弟子の山下君を誘って行くつもりであったが、山下君の都合がつかず単独行となってしまった。

タイヤを夏タイヤに履き替えてしまっているため、路面が凍っていたらと思い家を遅めに出てスキー場には7時過ぎに着いた。セイモアスキー場は、朝からボーダーとスキーヤーの車が一杯で、皆さん頑張っている

などと思った。今日はいい天気なので、山屋も何組かいるかなと思って見渡すも見当たらない。

準備をして橋を戻り林道を歩くが、当然除雪はされていない。登山口に到着し登山道を見上げると、ここは急な斜面で雪の消えたところと、雪の付いたところがあり嫌な所だ。少し手こずったがアイゼンを付けずに

登り稜線に出た。これから頂上までは、分かり易い1本の尾根で迷う心配はない。杉林を2つ過ぎ大分登ったかなと思ったら、標識に出くわし「岩屋敷中間点頂上まで1時間50分」と書いてある。

まだ半分しか来てないと思って少しがっかりしたが、頑張っって歩を進める。そこから少し上の広い稜線に出たら、上空で鳥が3羽舞っている。下から見上げると羽に白い縦縞が入っていた。トンビではないことは分かるので写真を撮ったけど、飛ぶのが早くて空しか映ってなかった。鷹か鷲の類と思う。

頂上に近づくとつれ風が強くなり、頂上で景色を眺めながら昼飯を食べるつもりが、止めて早々に下山し、頂上から少し下の大きな杉の根っこに入り食べた。

頂上からの眺めは圧巻で、尾根伝いに白山まで行ってみたい気分になる。

登りはアイゼンを付けなかったが、急な斜面も何カ

コース	タイム	スキー場	登山口	岩屋敷中間点	頂上 (1269m)
登り	7:23	⇔⇔⇔	7:45	⇔⇔⇔ 9:43	⇔⇔⇔ 11:01
下り	13:37	⇔⇔⇔	13:06	⇔⇔⇔ 12:19	⇔⇔⇔ 11:10

所があったので、アイゼンを付けて下った。登る時は全く迷うこともなく登れたが、下りでは、上の杉林を下る時に注意しないと稜線を外れて下に下りてしまうので注意が必要だ。この杉林は右側を谷に沿うように下りないといけない。

登山口の最後の下りで、アイゼンを引っ掛け転倒し、脇腹を土砂留めの鉄筋にぶつけてしまった。

かなり痛かったが、肋骨が折れてもいないみたいなので不幸中の幸いかなと思う。登山道の土砂留めの横棧を支える鉄筋が、横棧より上に出ているのが危ないといつも山に登っていて思っていたのが、現実となってしまった。

今回は、誰も登山者がいず私1人の静かで痛い山行でした。支部の春山山行に組み込んで皆さんで登ったらしいなと思った。

## II. 行事等 報告

### 1. 石川支部創立70周年記念式典

平成30年2月3日

開催場所 ホテル金沢 4階 風の間

2月3日にホテル金沢、風の間にて行われました

会員会友総勢41名の参加にて、午後4時半より受付開始予定だが

集合が早く午後3時ごろから三々五々集まり、ロビーでお待ちいただく

午後5時には全員着席にて八十嶋会員の司会により開会となる

まずは岡本会員による創立50周年以降の物故者に黙とうを捧げる

のち、式典開会となる

中川支部長より開会の挨拶

「本日は日本山岳会石川支部の創立七〇周年記念祝賀会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

1947年、昭和二十二年の創立から七十年の年月が流れましたが、

これまで大きな事故もなく今日を迎えることが出来ましたことを、まずは、皆さまと共に喜びたいと思います。

創立50周年の節目には記念誌発刊や記念講演を開催、60周年にはインドヒマラヤへ遠征隊を派遣し6342m峰に初登頂して、マーン峰と名付けました。10年の歳月は、全て懐かしい思い出になります。

おひとりおひとりにとって、石川支部との係りは心の宝になっているものと思います。

70周年を迎えるに当たっては、今一度足元を確かめて、更なる歩みを進めるための機会にしたいと思い、今日の祝賀会のコンセプトを「感謝と前進」としました。

と申しましても改まったことは特にないわけではありますが、支部創立以来在籍された旧会員や、石川支部に係ってくださった、所在の解る限りの方に、案内状を発送し、本日参加して頂いた皆様や、参加できない方からも激励や御芳志を頂きました。厚く御礼を申し上げます。皆様のお手元にある小冊子は50周年記念誌発刊後の支部の年譜を樽矢さんが作成してくれました。記念品のワッペンが村上さんの手によるものです。有難うございました。今日は、遠方から3名のご参加も頂きまして、会員の中には初めてお会いする方もおられるので、ご紹介します。

まず東京から参加して下さったのは佐藤守様です。

北海道からお仕事の転勤で石川に来られ、支部会友として在籍して下さい、東京に戻られた後もお付き合いを頂いており、昨年まで本部執行部の常務理事をされておられました。支部長会議で上京した折も、その穏やかな人柄でアドバイスを頂きました。思えば、白山瀨名の旧簡保の宿での山祭りのときには、大きな二艘の船盛料理を差入れて下さり、未だ何のお礼もしておりません。申し訳ありません。

もう御一方は、谷内剛様です。年次晩餐会の折、石川支部のテーブルに座って下さいまして、石川県出身の方だと知り、その場で支部会友に加入して下さい、今年7月に石川支部が主管して開催される、全国自然保護委員会の理事をされています。石川県出身の山仲間です。

谷内さんの為にひと肌脱いで、会員の皆さんにはその節ご協力頂きます様、どうか宜しく御願い致します。

名古屋からは皆様おなじみの沖先生（允人）様です。創立60周年のインドパンゴン山脈遠征以来親しく支部と交流して頂き、深田久弥さんとの縁も深く、加賀市の深田久弥山の文化館にもお力を貸して下さいました。沖先生、奥様と共に冬の大日山の山頂で頂いたあの赤ワインの味は、今も忘れられません。

それから嬉しいことに石川の旧会員が参加してくれました。岡本さんの隣におられる川江徳治先輩です。私達が石川支部に入会した頃の怖くて優しい先輩です。高体連の山岳部から私達の面倒を見て下さり、澤村会員、廣瀬会員と共に、私達を剣岳へいざなってくれた恩人です。

このような方々に山を教えられ、励まされ、又、全ての会員に支えられて70周年を迎えられたことに感謝し、皆様にも今日の縁(えにし)を大切に頂きたいと思いご紹介しました。

石川支部は少しずつ若返りを図り、先輩と仲間がこれからも愉快地に、一層人の輪を広げて頂きたいと、切に願っております。日本山岳会は、平成24年より公益社団法人となり、全国各支部はより一層、本部との連携運営が求められることとなりました。ふるさとの登山道整備や、定着してきた親子登山等の公益事業にも力を注いできました。自分達の登山も探究しながら公益事業にも頑張るのは、エネルギーのいることです。

しかし、見方を少し変えて、仲間の皆で楽しもう・・・と思えば志を同じくする仲間の輪は広がると私は信じております。今、支部には新たに正会員に入会のお話も数人来ております。

その中には高校一年生と中学生の兄弟も入会するかもしれません。又、支部会員から本部会員に入会する方もおられます。会員が増えて、朝日が東の空から登るがごとく、石川支部が更に前進する礎(いしづえ)となるように、力を合わす山仲間であり続けたいと思います。

皆様の更なるお力添えをお願いしまして、本日のご挨拶とさせていただきます。

有難うございました。」

支部長挨拶ののち、感謝状贈呈式が執り行われ、6名の会員へ感謝状が贈呈されました

感謝状は馬場勝嘉永年会員、津田文夫顧問、澤村眞治永年会員、太田義一会員、多野正一会員、廣瀬幸寛会員、の各位。（馬場会員はご高齢の為、式典にはご欠席）



支部長より皆さんの盛大な拍手の中、各人に感謝状と記念品をお渡しする。

また贈呈された方より一言づつお言葉を頂きました。ありがとうございました。

以上にて記念式典は終了とし、祝賀懇親会準備の為一端みなさん退席とし、祝賀会後半は懇親会となる。

旧会員も参加し、大いに盛り上がる懇親会となりました。

最後に今回の記念式典実行委員長、事務局樽矢導章会員より閉会の挨拶と中締め、

参加者全員で記念写真と撮り、お開きとした。

帰り際に某会員から、やはり石川支部は紳士の集まりですね、参加して良かったと声をかけて頂きました。

第2代支部長池田知幸先輩の「山岳会は何事にも品格を持って紳士であれ」のお言葉を思い出されました。

これもひとえに会員皆さんのおかげです。

樽矢実行委員長の閉会挨拶

「事務局の樽矢です、閉会の挨拶と言うことですが、その前に少々お時間を頂き、日本山岳会ならびに石川支部の現状をお話致します。日本山岳会は平成24年に公益社団法人になりました、その経緯につきましては省略いたしますが、公益事業を広く進め、また準会員制度やユースクラブなど周辺裾野の拡大も進めております、しかしながら現在会員数5000名前後となっており、平均年齢は69歳となります。

今後の会の運営や存続に大変な危機感がございます、また石川支部も同じです、現在会員数46名会友10名会友を除いた平均年齢は70歳となります、いずれにしても会存続は構成する会員がいてこそ成り立ちます従いまして会員のご紹介をあらためて皆様のお力をお借りしたい所存でございます

石川支部は公益事業として登山道整備並びに親子登山教室を進めております

特に親子登山教室は単に山に連れていくと言う形態ではなく、座学、事前フィールド教室を通じて、親御さんと子供たちに山登りの楽しさ、またいろいろなりスクへの対応など体験してもらい子供たちが次世代の登山者になることになればと思います、ボランティア参加会員には負担をかけておりますが、今後も実施していきたいと思っております。会員の構成顔ぶれが変わり、登山形態も変わっていきますが、日本山岳会石川支部のありかたを今一度皆さんと考え、改革するべきところは改革し、しかしながら、のちに先輩から「伝統を守る努力をしたのか」との叱責を頂かないようにしたいと思います。本年は7月に自然保護全国大会を石川支部主管で開催することになっております、現在は準備段階ですが、是非とも皆さんのお力添えを賜り合いと思っております  
最後になりましたが、本日は70周年記念式典にご参加、大変ありがとうございました  
準備を進めてきました実行委員会一同、感謝申し上げます。



## 1. 月次集会 三水会

平成30年1月度三水会報告

1月24日（水曜）

参加 中川、村上、前田、織田、大幡、町口、岡本、藤井、堀、樽矢、中嶋（堀友人）

今月の三水会は2月3日予定の70周年記念式典前準備として参集準備として大封筒に式次第、年譜冊子、名札、会員番号入りワッペンなどを入れる作業を参加会員にて行う、50周年記念誌が最終在庫20部あるので記念式典参加者のうち、50周年以降に会員になられた方に謹呈とする記念誌は同じく封筒に入れる。

記念式典関係として、司会、撮影、受付など申し合わせ確認する当日、役員、各係りは16時集合、会場の準備を行うこととしたここまでおおよそ1時間、本日は最強寒波と言うことで、作業が終了した段階で早々に解散とする

なお、堀会員の友人である中嶋氏も参加。なお中嶋氏は当月準会員申請をされました。

2月21日（水曜）

参加 中川、村上、岡本、澤村、大幡、藤井、辦谷、堀、前田、八十嶋

提示に参集

最初に行く2月3日に行われた創立70周年記念式典の写真を見ながらの歓談更に1月17日18日に行われた平成29年度登山教室指導者養成講習会に参加した八十嶋会員から写真の解説をしながらの報告を行った。

詳細については本HPに別にあげてありますのでご覧ください

なお、ザックを使用しての搬送の訓練を参加者で行った。

ザックを逆さにしての人に担ぎ方、またザック2個を連結しての簡易担架として搬送の仕方など参加者で確認した、実際にすると個人装備でも1.2Mのリングなど必要であることも知らされる今後の山行個人装備の参考としたい。

また支部長より新会員の申し出が数件あるとの報告、また事務局より新準会員の入会申込書の中嶋氏より受領当月の理事会に間に合うように本部へ郵送した旨、報告があった

なお、来月の三水会は平成29年度最終の役員会を兼ねての集会となります。

## 2. 役員会会務報告 兼三水会

3月21日（水曜） 19:00-21:30

参加者 中川、岡本、村上、大幡、池本、織田、前田、田井、八十嶋、樽矢 10名

本年度第4回の役員会（兼三水会）

議題① 総会の議案について

- ・平成30年度公益事業 総会案については再度精査とした
  - 1、公益事業1 自然保護全国集会
  - 2、公益事業2案 白山親子登山教室 実施する計画とした

- 3、公益事業3案 自然観察会 親子登山教室参加者及び本会員会友なども参加できる日程場所を選定する
- 4、公益事業4案 登山道整備事業 取付道路の破損などある箇所もあり、再度実施案を実行委員会にて検討するとした

・平成30年度共益事業

1、山行委員会にて計画案を作成する

・役員改選について案が開示され了承

1. 新組織案として、安全委員会を設置し、登山計画書精査など行い安全登山の啓蒙を推進する
2. 安全委員会の委員については兼務も含めて再選定をすることとした

報告

①平成30年度自然保護全国集会開催について進捗報告 中川支部長

細部は詰める箇所あるも、現在は進めている

3月23日24日 本部、自然保護委員長と担当委員2名集会宿泊場所の現地確認をした

最終実施要項は4月に開示される

②創立70周年記念式典の決算報告を岡本委員より報告 了解

### III 今後の予定

#### 1. 行事予定

● 平成30年度 石川支部総会

先般郵送にて全会員各位へご案内しましたが、再掲載です

(1) 日時 平成29年4月21日(土) 16時から

(2) 場所 吉野谷セミナーハウス TEL076-256-7246

白山市中宮ヲ16(旧中宮温泉スキー場駐車場脇)

(3) 内容 総会 16時から開催 各自任意に集合 懇親会(宿泊) 18時半から

(4) 懇親会など会費&参加内訳

5,000円(1泊2食/懇親会含む) 4,000円(1泊1食/懇親会含む/朝食無し)

\*温泉は近くの「新中宮温泉センター」(¥370)をご利用ください。\*営業時間 土曜は12:00~20:00ま

(5) 参加申込期限 4月16日(月曜) 締切必着

(6) 申込 同封返信用はがき・メール・FAXにて受け付けます

返信用葉書 総会出欠記載・懇親会出欠・氏名記載してください欠席の方は必ず委任状に記名ください

メール 事務局樽矢宛で送信ください。委任する場合は氏名と議長に委任すると書き添えてください

F A X 本紙にて記名し事務局へ送信ください。欠席の方は必ず委任状に記名ください

\*準会員・会友の方の委任状は不要です

当日は支部費(3,000円/年)も集金致しますので準備ください、翌22日は久弥祭ですので、早朝出発で朝食不要の方は申し出ください、葉書で返信頂く方は必ず氏名を記載願います(昨年数名不明の葉書有)

同時に平成29年度に各位個人山行の報告をお願いします

#### 2. 平成30年度 日本山岳会 自然保護全国集会

平成30年度 日本山岳会自然保護全国集会は石川支部主管にて全国より約100名参加にて催行されます。

詳細は後ほどご案内いたします

### 3. 月次集会 三水会

5月16日（水曜） 金沢総合体育館第三会議室  
6月20日（水曜） 金沢総合体育館第三会議室（予定）  
7月18日（水曜） 金沢総合体育館第三会議室（予定）

## IV. その他 案内・連絡

### 1. 登山届け、計画の提出について 再掲載

石川支部としても今一度どのような規定制度にするか、提出方法はどうかなど最重要項目として取り組みたいと思います。 各位のご理解とご協力をお願い致しますのでご検討ください。

現時点で、石川支部では「コンパス」の利用を推奨しています。

PC、スマートフォンの方は出来るだけ「コンパス」を利用お願いします。

又、登山口では紙での提出もお願いします。

- ・石川支部のホームページ : <http://jac-isk.com/>
- ・石川支部の計画書提出先・緊急連絡先アドレス : [keikaku@jac-isk.com](mailto:keikaku@jac-isk.com)
- ・公益社団法人日本山岳ガイド協会 コンパス : <http://www.mt-compass.com/index.php>

尚、白山山系では石川県、岐阜県で登山届けの提出は義務化されています。

### 2. 山岳保険の確認・連絡 再掲載

支部の皆様へ、現在加入されている山岳保険の確認をお願いします。

登山計画の届けでは保険の加入について記入が必要です。

支部の方でも確認したいので加入されている保険について連絡をお願いします。

### 3. 連絡への返信について 再掲載

支部からの連絡や会員同士での連絡について、返信を求められている連絡については必ず返信をお願いします。

期日のある連絡については受取り次第、速やかに返信をお願いします。

例えば、行事などへの参加・不参加の確認連絡については、**不参加なので返信しない**、は不参加との意思確認が出来ないので、不参加の場合でも**必ず不参加との連絡**をお願いします。

### 編集後記

本年はのっけから大雪になり、除雪で山どころではありませんでしたが、さすがに季節は春を忘れてはいません。桜が開花する時期から山が皆さんを待っております。本支部は年齢構成も多彩ですので、誘い合って新しい山や新しい楽しみを探しに行きましょう。但し、近隣でも登山計画書の提出は忘れ無きように。

日本山岳会 石川支部報  
発行日 2018年(H30)年3月31日  
発行者 公益社団法人 日本山岳会  
石川支部長 中川 博人  
編集者 支部報担当 堀 正春  
電話076-232-3555  
E-mail [isk@jac.or.jp](mailto:isk@jac.or.jp)  
HP <http://jac-isk.com>